

＼ 誰もが主役になれるまちづくり ／

圧倒的 ホームタウン



東武動物公園駅東口通り線周辺まちづくり構想

ベッドタウンから 圧倒的ホームタウンへ

住むだけ、寝るだけのベッドタウンが、目覚めます。
都心通勤圏内のコンパクトシティ、密にならない農ある暮らし。
宿場の歴史を受け継ぐ、商いの文化と顔の見えるコミュニティ。

「わたしがやりたい」
「僕がやるべき」
「創り出すのはわたしたち！」

自分から創りたい人にとことん寛容で、誰もが主役になれる余白で
いっぱい。年代や職業や立場、まちの境も越えていける。

みんなの舞台 = 圧倒的ホームタウン

このまちにある資源を活かすのは、このまちに関わる人。
一人ひとりが立ち上がるきっかけと、動き出せるステージをつくる。
それがわたしたちのまちづくりです。



もくじ

1. はじめに
2. まちの現状と課題
3. 未来像
4. まちなか ACTION
5. 今後の展望





はじめに

1

東武動物公園駅東口通り線周辺まちづくり構想について

● 東武動物公園駅東口通り線周辺まちづくり構想とは

東武動物公園駅東口通り線周辺の「まちなか」エリアで、官民連携を基本とした民間主導による空間資源（公共空間^{※1}・遊休不動産^{※2}）の活用を進めていくための戦略を、行政参加によって策定するものです。空間資源の新しい活用の実践・表現〔小さなリノベーション〕と公共空間の再編〔大きなリノベーション〕をすることによって、スピーディーに「まち」を変えるしくみを創り、持続可能な地域経済の循環を目指します。

これは、補助金にできるだけ頼らない、自立した「まち」に向けての経営戦略です。

● 計画等への位置付け

【第6次杉戸町総合振興計画】東武動物公園駅東口通り線周辺の整備については、「旧杉戸小学校跡地をはじめとした周辺の地域資源を活用し、賑いを生み、滞留したくなるまちの創出を図る」と位置付けています。

【第2期杉戸町まち・ひとしごと創生総合戦略】旧杉戸小学校跡地及び周辺地域を、「地域資源や沿道建物などを一体的に利活用し、歩いて楽しく回遊できる空間を創出することで、多様な人々の交流や滞在、地域消費が好循環できるようなエリア」と位置付けています。

※1 公共空間…広場・道路・河川・施設等を指す。

※2 遊休不動産…空き家・空き店舗・空き地等を指す。

小さなリノベーション

【民】空間活用

- 今ある資源とポテンシャルの活用
- 新たなプレイヤー[※]とコンテンツの創出
- 空間資源と連携し、新しい活用方法の実践・表現

※ プレイヤー…

商売人・不動産オーナー・アーティスト等のビジネスパーソンを指す。



大きなリノベーション

【官】公共空間再編

- 東武動物公園駅東口駅前広場、東口通り線の整備
- 旧杉戸小学校跡地の再編
- 大落古利根川の護岸整備

圧倒的ホームタウン

東武動物公園駅東口通り線周辺まちづくり構想

空間活用と
投資の活性化

規制緩和と
公共空間再編

プレイヤー

新しいコンテンツ
の創出

不動産オーナー

不動産価値
の向上

金融機関等の支援

創業支援

行政の支援

規制緩和
交流支援

民間事業者

民間主導で事業を興し、行政が支援する新しい活用方法を実践・表現することで「まち」を活性化させる。

行政

新しい活用方法の実践・表現に基づき公共空間を変える、導く。

構想の検討体制

全国のまちづくりに携わる専門家のお話を伺うとともに、作業部会で検討してきた構想の骨子（案）について、委員の皆さまから助言や承認をいただくための組織。4回の委員会を開催。

第1回



2020年7月30日

第2回



2020年10月16日

まちづくり
構想推進
委員会

／ 助言・承認 ／



【目的】
まちづくり構想に対する
助言及び承認

【メンバー】

学識経験者や地元関係団体長/
民間事業者/役場職員

作業部会
(タスクフォース)

／ 報告・提案 ／



【目的】
分野別検討による
まちづくり構想案作成

【メンバー】

住民/学生/起業者/農業従事者/
不動産オーナー/挑戦したい方など

住民や学生、民間事業者が集まって互いの活動を知り合いながら、東武動物公園東口通り線周辺エリアの未来を描き、まちづくり構想案としてまとめる組織。12回の作業部会を開催。

第1回

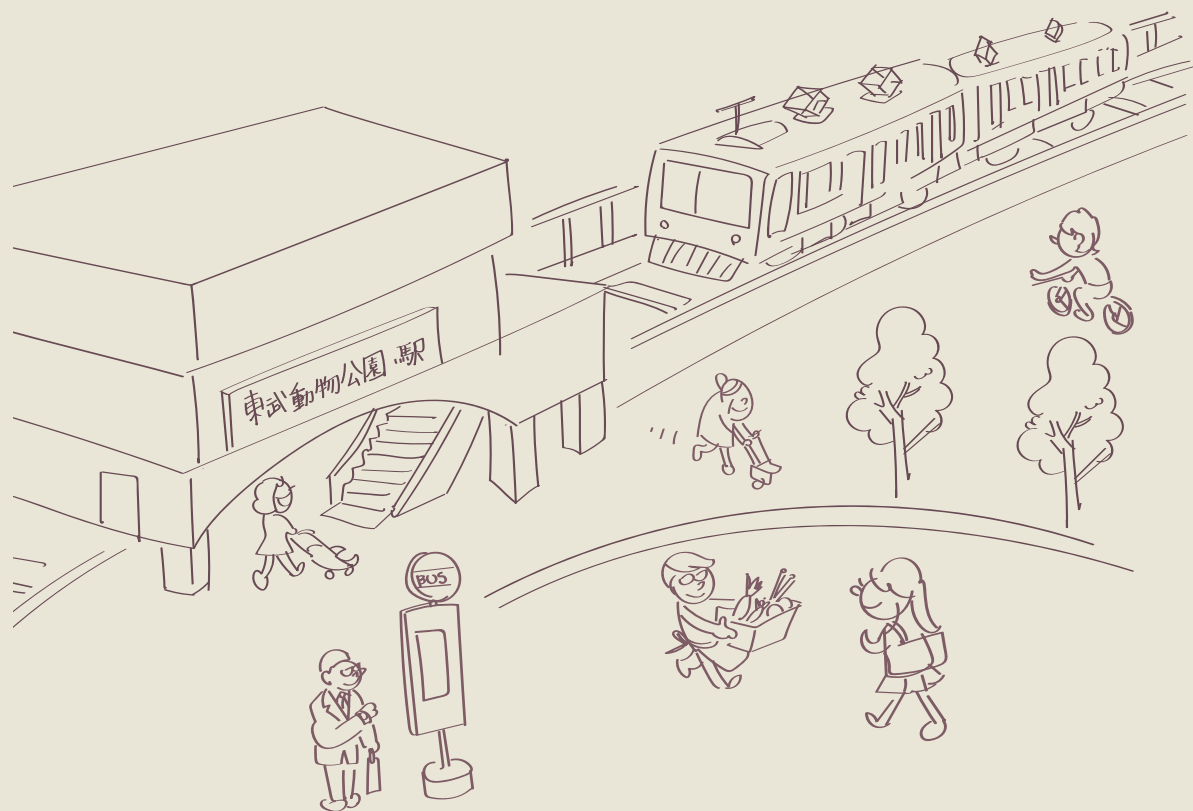


2020年6月26日

第5回



2020年9月25日



まちの現状と課題

2

人口減少が加速・若者が流出

2000年をピークに
毎年約120人の人口減少
特に20歳代の転出が著しい

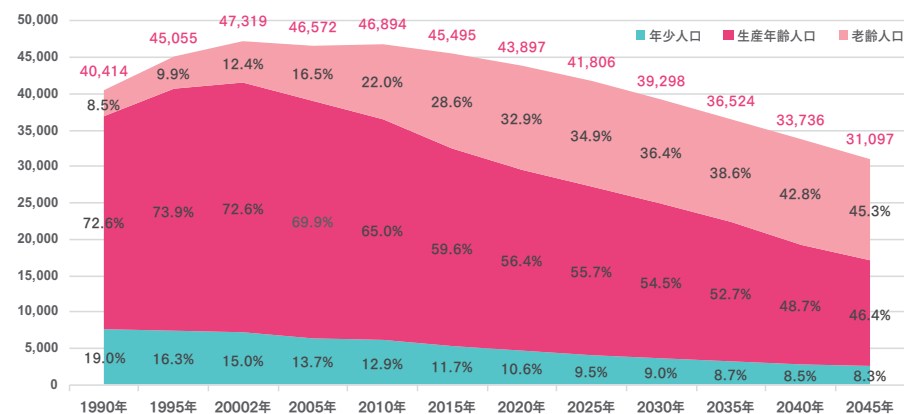
杉戸町の人口は、2000年の47,319人をピークに減少傾向となり、2000年から2015年の間に、1,824人、平均で約120人が毎年減少している状況です。

今後は、人口減少がさらに加速し、2045年には31,097人まで減少、65歳以上の高齢人口と生産年齢人口が同数程度になると推計されています。

また、年齢階級別の人口移動（純移動数）は、男性女性共に20歳代の転出が突出しており、これは高校や大学、就職で転出してしまい、その後のUターン率が低いことが考えられます。

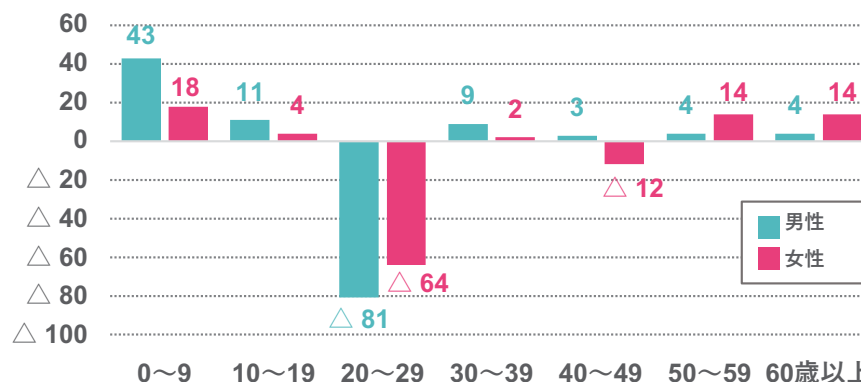
生産年齢人口の減少は、持続可能な地域経済の構築にとって重大な課題となっています。

人口推移（過去～現在～未来）



出典：2015年国勢調査、国立社会保障・人口問題研究所
「日本の地域別将来推計人口（2018年）」

年齢別転入者数・転出者数との差（2018年）



出典：住民基本台帳移動報告（2018年）

空き家の増加と地価の下落

空き家増加と地価の下落
空き家は毎年平均約50戸増え、
地価は最大約18%下落

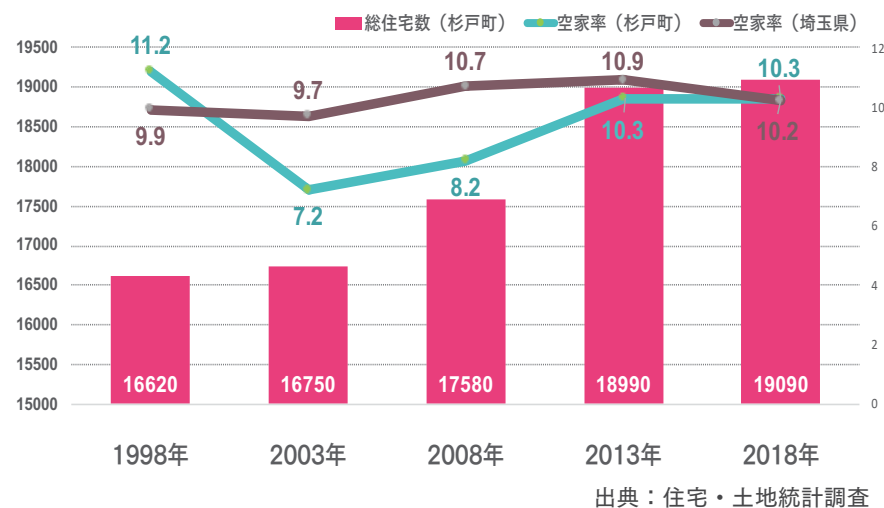
杉戸町は、2003年から2018年の15年間で、総住宅戸数は2,340戸増加しています。

空き家率は2013年から横ばいの10.3%ではあるものの、総住宅戸数が増加していることもあり、空き家の戸数は約760戸増加しました。これは、毎年平均約50戸ずつ空き家が増加している状況です。

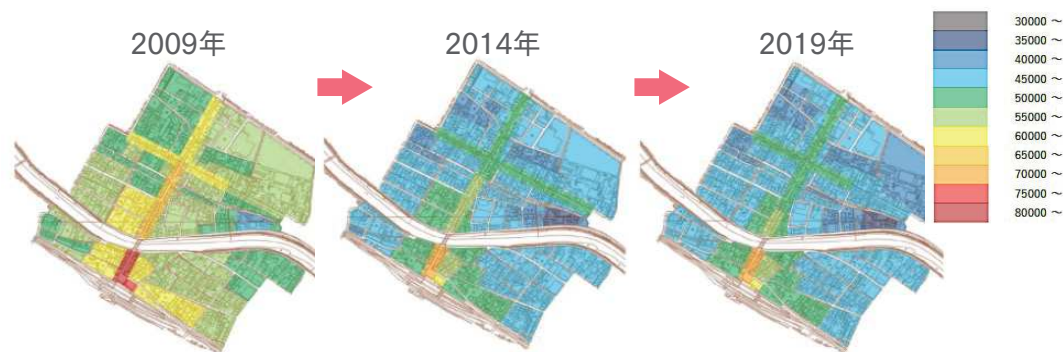
また、まちなかエリアにおいては、地価の下落が続いています。特に、2009年から2019年の間については、近隣市町の大型商業施設の開業や空き家率の増加による影響など複合的な要因で、最大で約18%地価が下落しています。

空き家の増加は、景観及び防犯上好ましくなく、まちの魅力を著しく低下させます。
 将来的には、税収などの減少により町財政に深刻な影響を与えます。

空き家状況



路線価推移 — 東武動物公園駅東口周辺 —



出典：固定資産税路線価

地域内消費が少ない

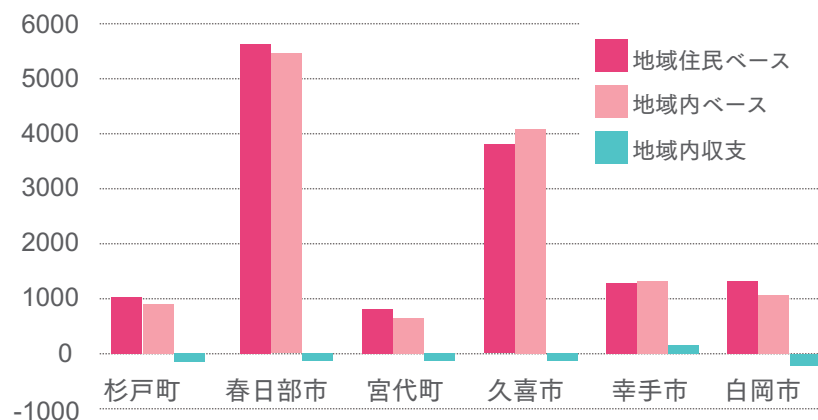
地域内収支はマイナス
地域内での消費少なく
食品・日用雑貨はワースト1位

近隣市町村と同様に、杉戸町でも地域内収支がマイナスとなっていることから、民間消費が流出していることが分かります。

消費動向（主な購買場所）では、近隣市町村との差が明確となっており、食品・日用雑貨等の消費動向はワースト1位、さらに家族で買い物を楽しむ場所としても杉戸町は低いことが分かります。

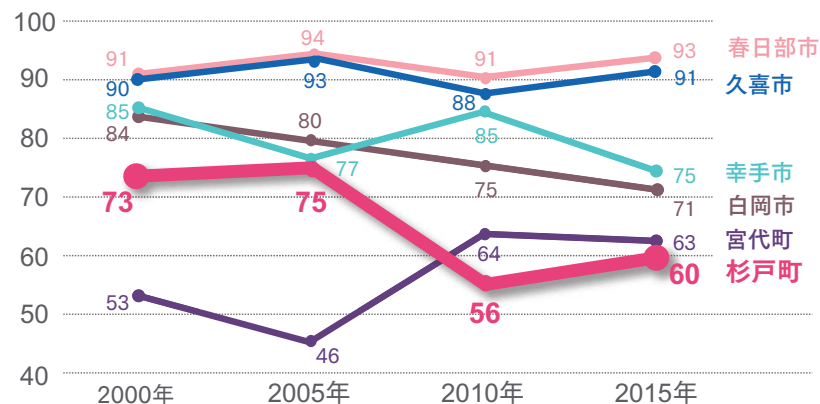
支出分析 民間消費額（総額）2015年

支出分析 民間消費額（総額）



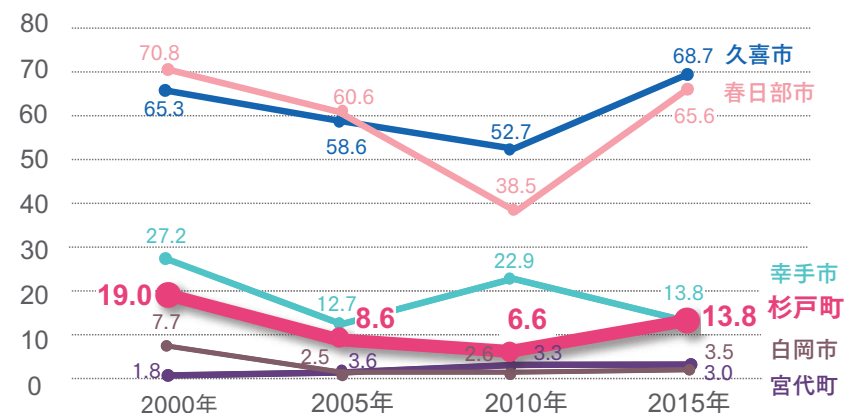
【資料】環境省「地域産業連関表」、「地域経済計算」
(株式会社価値総合研究所(日本政策投資銀行グループ)受託作成)

消費動向 食品・日用雑貨等



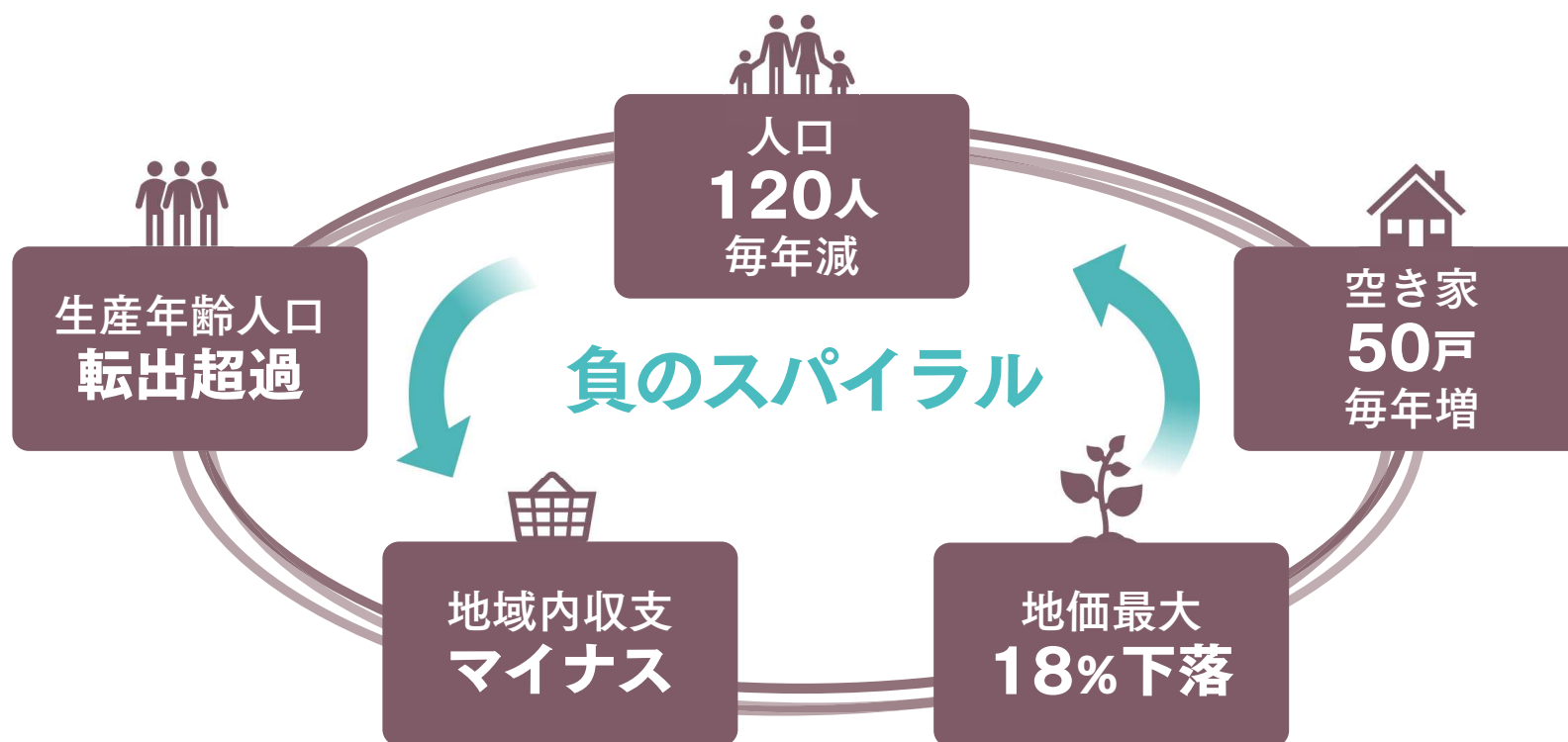
【資料】埼玉県広域消費動向調査

家族で買い物を楽しむ場所



【資料】埼玉県広域消費動向調査

衰退を招く「負のスパイラル」

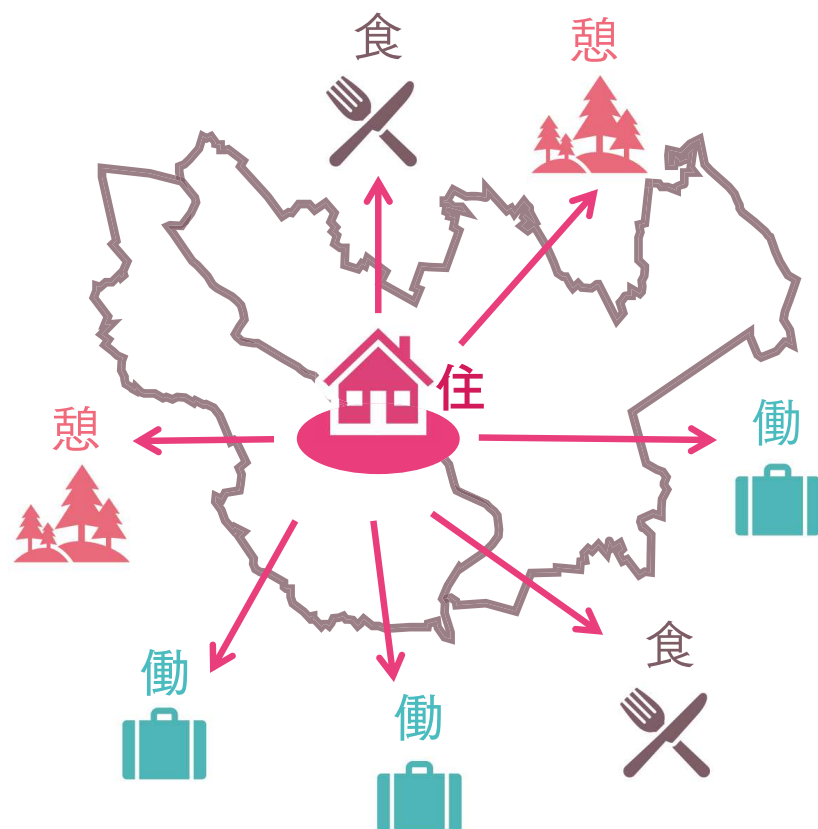


流出の悪循環

杉戸町では、2000年から人口減少が始まり、毎年約120人減少、特に20歳代の転出が顕著です。さらに、空き家は毎年約50戸増加し、2009年から10年間で地価が最大約18%下落しています。また、地域内収支はマイナスとなっており、消費流出の抑制が課題です。

まち全体の魅力が低下し、更なる衰退を招く危機に瀕している。

人とお金の流出で、まち全体の魅力が低下



居場所がないまちなか

まちなかはかつてのにぎわいを失い、シャッターを閉める商店が多くなりました。車や歩行者は、家や駅、学校を目指して通り過ぎるだけ、休日にも人通りが少なく閑散としています。



人とお金が流出

にぎわいを失ったまちでは、ほとんどの消費活動がまちの外で行われることが必然となり、人とお金が流出します。



まち全体の魅力が低下

この流れを止めない限り、
持続可能な地域経済を構築することはできません。

まちのSWOT分析（作業部会意見）

強み

- ・まちづくりの想いが強い人が多い
- ・流灯まつりなど伝統的な行事がある
- ・歴史ある街並み（宿場町）
- ・道の駅アグリパークゆめすぎと、新しい村
- ・県内でも珍しい、貴重な農業高校
- ・都心とのアクセスが良い
- ・丁度良いサイズ感（コンパクトタウン）
- ・大落古利根川や東武動物公園等のポテンシャル
- ・広大な農地がある

弱み

- ・人のつながりが弱い（利害関係、行政と町民）
- ・時間をつぶす場所がない
- ・飲食等の店舗が少ない
- ・主体的な住民の顔が見えにくい
- ・近隣市町とのつながりが希薄
- ・駅前や杉戸町の庁舎が古い
- ・知名度が低い

機会

- ・道路拡幅事業と旧杉戸小学校跡地の再編
- ・大落古利根川の活用（護岸整備）
- ・大落古利根川がきれいになってきた
- ・東武動物公園駅利用者の約7割が東口を使う

脅威

- ・町民の購買は近隣市町のショッピングモール
- ・人口の減少

顔の見えるプレイヤーたちが 「このまちでやりたいこと・できること」

「仕事」をテーマにしたイベントや
講座でスモールビジネスや地域活動
を支援したい

プレイヤー同士をつなげることで
事業や活動を互いに応援しあい
活力とお金の循環を生み出したい

場所さえあれば、飲食店やアクティ
ビティツアーやレッスンを開きたい

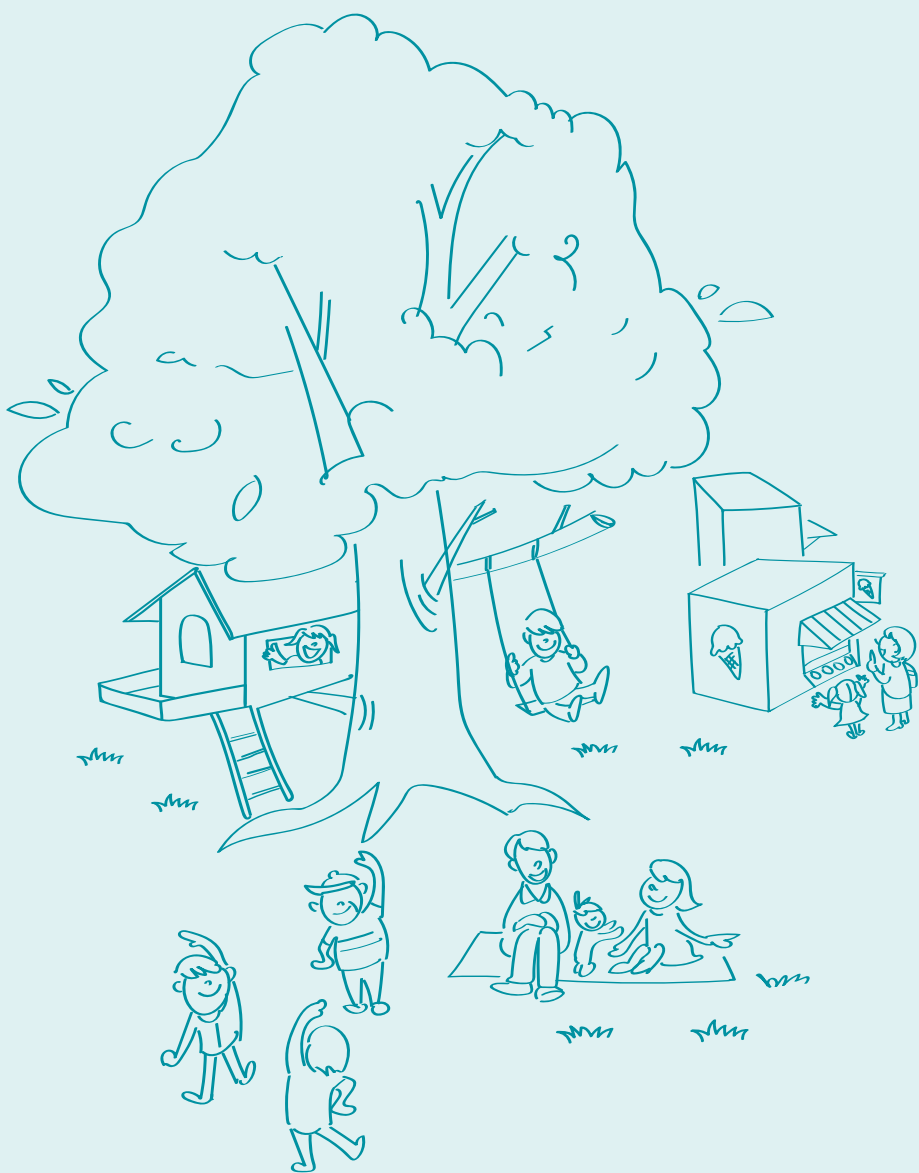
四季の野菜を味わってもらうことで
農業やまちの良さを知ってもらいたい

まずは、まちなかのスモールエリアで

やりたいこと

できること

を小さく社会実験しながら、地域全体の課題解決を目指します！



未来像

3

まちの人的資源

まちに新しい風を吹き込む人たち



RADIX
(レイディックス)

杉戸唯一のサーフショップ。SUPやスケートボードでまちなかをアクティブにするために活動中。



choinaca
(ちょいなか)

ちょっと田舎でたのしく自立を目指し、しごとづくり講座やイベントをしかけるチーム。



**わたしたちの
月3万円ビジネス卒業生**

choinacaの手がけるスモールビジネス講座から地域にデビューしたパワフルなまちの女性たち。



株式会社 太平

一人でも多くのお客様に、喜びや幸せを提供することを目指す総合事業商社。



中村建設 株式会社

明治20年に創業以来、大工職人としての気概を受け継ぎ、現場を最も大切にする建設会社。



岩崎建材工業 株式会社

まちで暮らし、まちで働くを实践しているエクステリア、外構工事、浴室リフォームの会社。



農業家のみなさん

町内において、新鮮で美味しい野菜・果物の栽培、直売をしている若手の農家さんたち。

空間

「まち」の空間資源

ポテンシャルの高い空間資源

かつて、にぎわいの中心であったまちなかには、空き家や空き店舗等の遊休不動産、今まで積極的または継続的に活用されていなかった道路や公共施設、河川等の公共空間が多数存在します。まちなかには、新たなプレイヤーのステージとなり得る、ポテンシャル豊かな空間資源がちりばめられています。

点在する遊休不動産



活用ポテンシャルのある公共空間



農

まちの農資源

自然豊かな農あるまち

まちの郊外には、広大な敷地の「アグリパークゆめすぎと」、駅西口から徒歩圏内の「新しい村」のように、自然豊かで農にふれあえる施設が充実。米をはじめ、ネギやブドウ、シクラメン等、様々な農産物の栽培が盛んです。また、埼玉県立杉戸農業高等学校は、生産から販売まで学べる貴重な教育機関です。

農産物（一例）

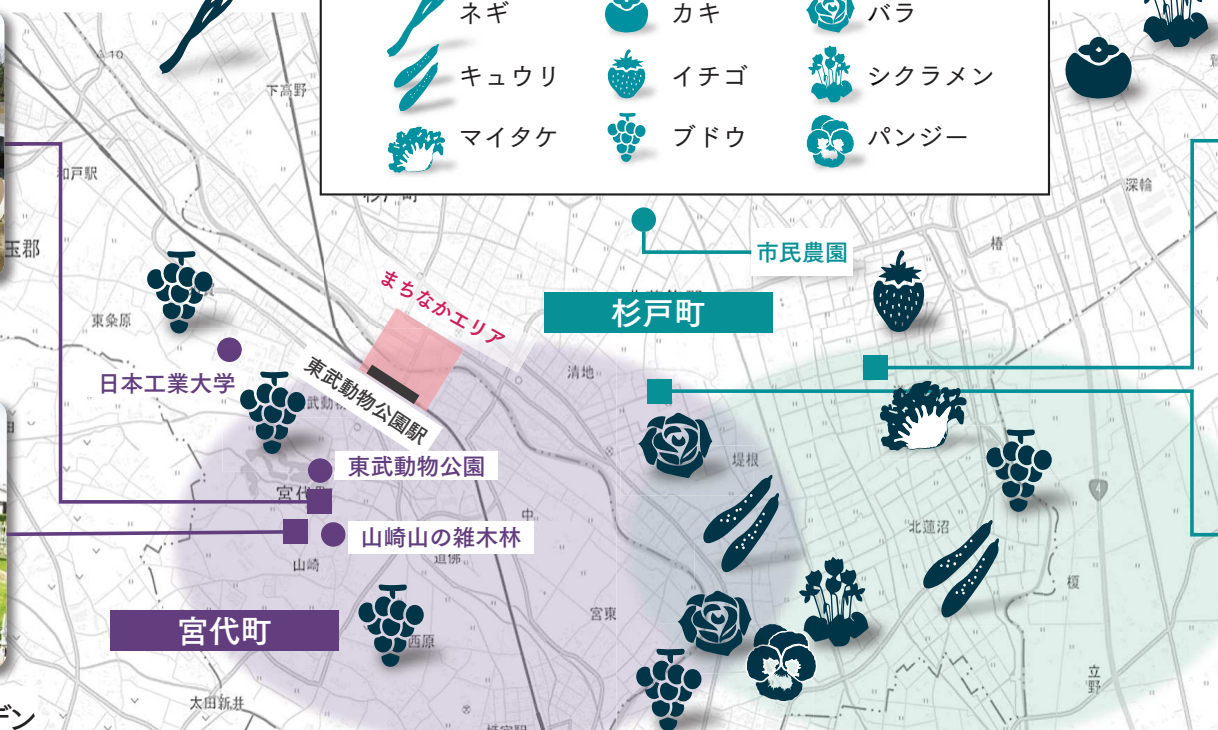
	ネギ		カキ		バラ
	キュウリ		イチゴ		シクラメン
	マイタケ		ブドウ		パンジー



新しい村



メディカルハーブガーデン



豊かな農産物

広大な農地



道の駅
アグリパークゆめすぎと



埼玉県立
杉戸農業高等学校

未来像実現のためのビジョン

＼ VISION ／

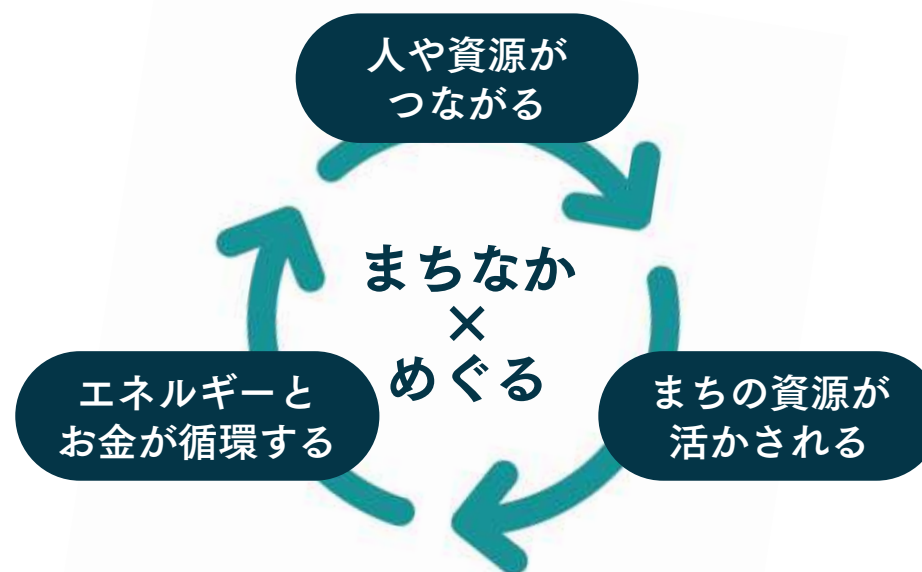
顔の見える経済圏を創る

—— まちなか × めぐる ——

人のエネルギーとお金が「まちなか」を起点に循環する
自立型で持続可能なまちづくりを目指します。

人口が減り、空き家が増え、地価は下落し、商圈としての機能を失い、年々衰退するまち。しかし、まちには前述のとおり、**やりたいこと・できること**のある人たちがたくさんいます。ポテンシャルの高い資源がたくさんあります。人と人、人と資源が分断され、つながっていないだけ。だからこそ、構想のビジョンを「顔の見える経済圏を創る」としました。このまちで**やりたいこと・できること**のある人たちに、まちなかの資源を舞台に、同時多発的に具現化してもらうことから始めます。
まちなかを起点に、**人のエネルギーとお金がめぐる**仕組みをつくるのです。その循環が大きなうねりとなり、まち全体を巡り、地域全体の経済がめぐるっていくように。自立型で持続可能なまちづくり、それが私たちのビジョンです。

やりたいこと・できることの具現化で



＼ VISION ／

顔の見える経済圏を創る

—— まちなか × めぐる ——

VISION を実現する3つの ACTION

＼ ACTION ／

1

「働 × 人」 人がまちなかで働く

＼ ACTION ／

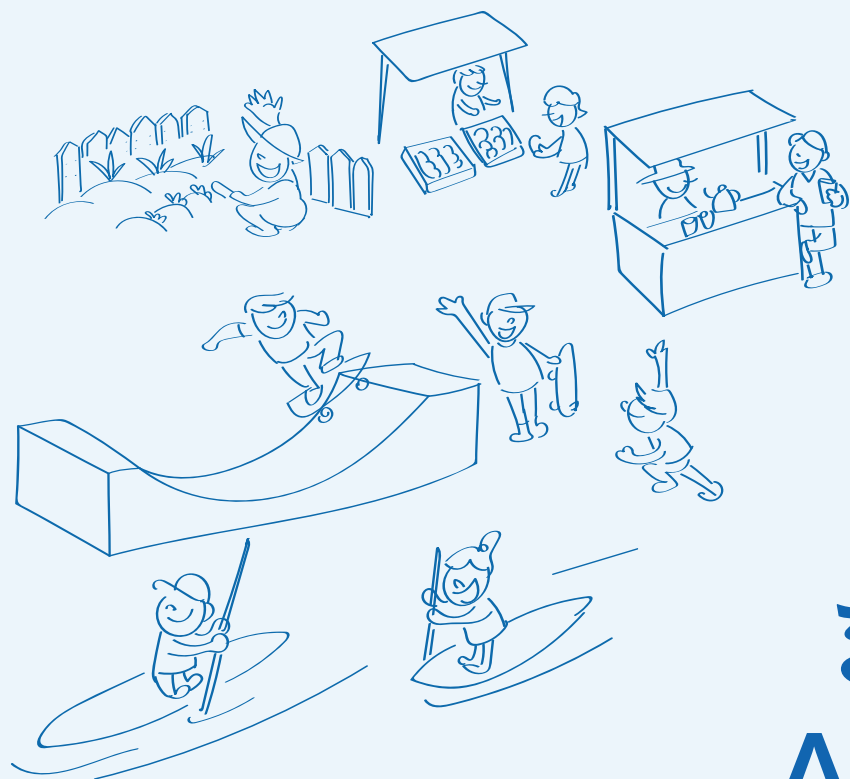
2

「憩 × 場」 憩いの場があるまちなか

＼ ACTION ／

3

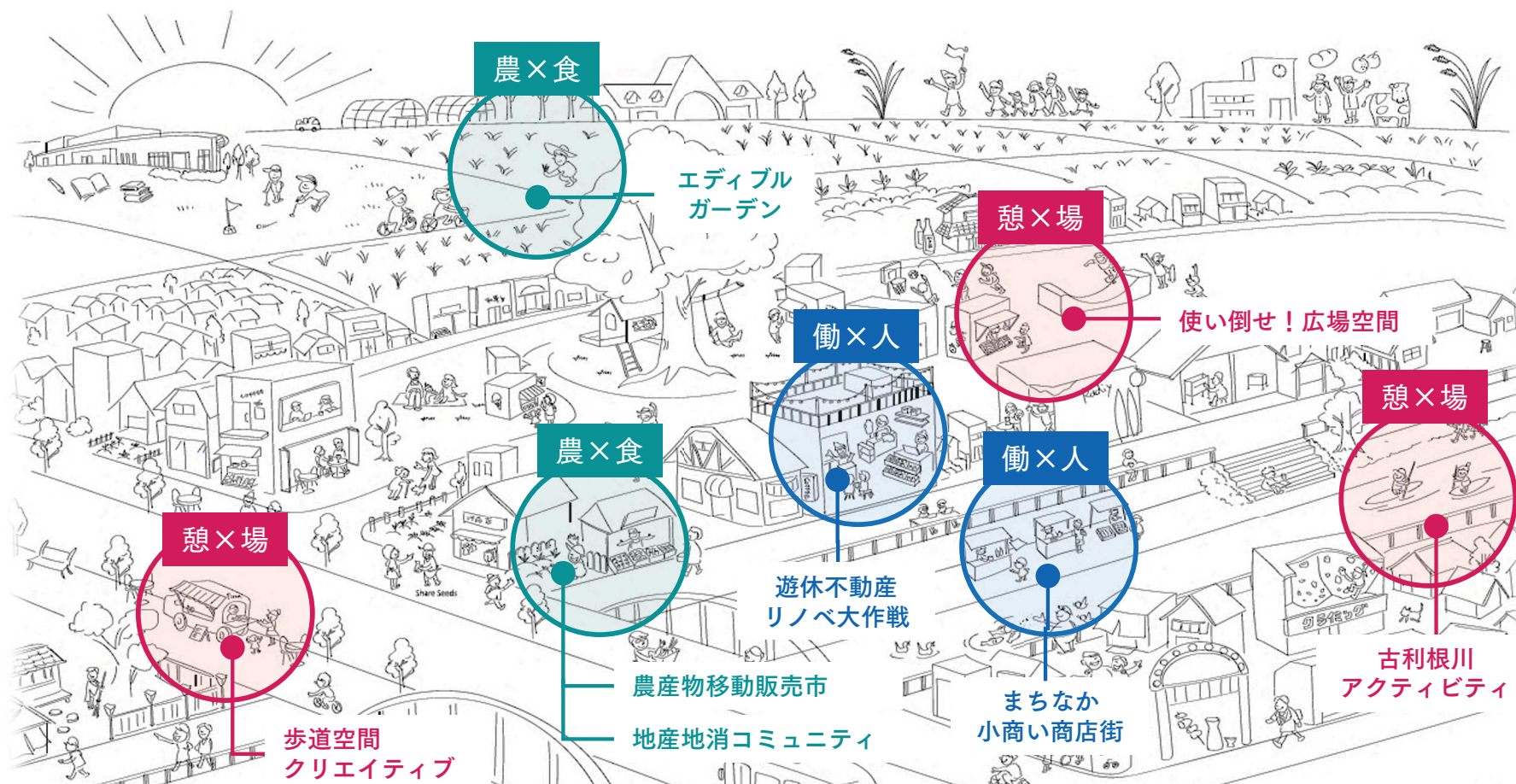
「農 × 食」 農をまちなかで食す



まちなか ACTION

4

それぞれの ACTION



まちには、まだまだ余白がいっぱい

自分から創りたい人にとことん寛容で、誰もが圧倒的な主役になれる
年代や職業や立場、まちの境も超えてつながれる

「みんなの居場所＝ホームタウン」
舞台に上がる主役は「わたしたち」

働 × 人

人が
まちなかで
働く

人の個性と想いを活かし、魅力あるコンテンツを連鎖的に生み出し、稼ぐ力を創出します。

地域に関わる
プレイヤーの発掘

+

新規創業支援

+

空間資源の活用支援

小さな商いへの包括的な支援

まちの内外のプレイヤーに対して、新規創業支援、空間資源の提供及び活用支援を行うことで、「顔の見える経済圏」が生まれる環境を整える。

現在、民間と行政で創業支援事業等を実施していますが、その後の支援が少なく、まちに根付く事業者を育てるまでには至っていません。

特に、事業を行うための場所の確保が難しく、創業意欲があっても出店できない状況が発生しています。

従来の創業支援に加えて、空間資源の提供や活用をサポートすることで、誰もがチャレンジしやすいまちを実現し、「顔の見える経済圏」が生まれる環境を整えていきます。

働

×

人

人が
まちなかで
働く

ACTION 1

4

まちなか ACTION

▶ NEXT ACTION

まちなか 小商い商店街



昭和30年代の東武動物公園駅東口商店街。
そこには「顔の見える経済圏」があった。

【資源】

- ・新規創業支援のノウハウを持ち、実践と実績を積んでいる地域のプレイヤー
- ・働く意欲のある子育て、シニア世代

【手法】

- ・高校生、子育て中の女性、シニア世代をメインターゲットに「好きなことを仕事にする」スモールビジネス支援を実施
- ・まちの新たなプレイヤーを発掘し、実践する場をまちなかに創出する

【効果】

- ・創業のハードルを下げ、誰でも商いができる機運を醸成
- ・小商いがまちの日常の風景になり、エリアが活性化
- ・実践者同士の「顔の見える経済圏」が可視化される

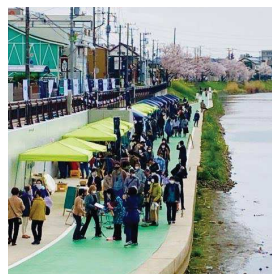
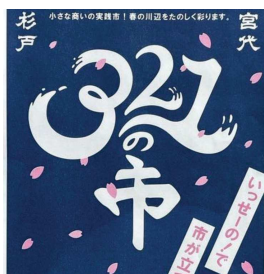
▶ 兆し：まちの先行事例

わたしたちの
月3万円ビジネス
「321の市」

実施エリア：大落古利根川

開催時期：2021年3月

自分の好きを仕事にする講座（3ビズ）の卒業実践として、古利根川の川辺を活用し「321の市」が開催。女性たちが等身大の小商いから、顔の見える経済を実地体験。



＼ 参加者の声 ／

- ・川辺で販売できてよかった。
- ・日常的に公共空間が使えるとより出店しやすい。
- ・台車が出入りできるスロープがあるとうれしい。
- ・製造許可のあるシェアキッチンや継続的な販売場所がほしい。

働×人

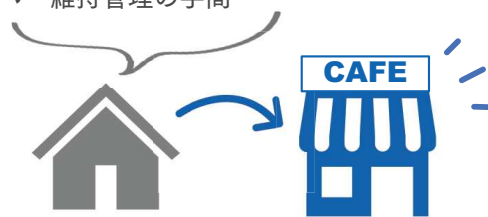
人が
まちなかで
働く

▶ NEXT ACTION

遊休不動産
リノベ大作戦

- ✓ 借りる人がいない
- ✓ 固定資産税の支払い
- ✓ 維持管理の手間

マッチング
&
リノベーション



【資源】

- ・まちなかに点在する遊休不動産
- ・まちづくりに意欲的な企業 など

【手法】

- ・空き物件、不動産オーナー、町内外のプレイヤーを集め、情報とニーズをマッチング
- ・リノベーションによる事業プランを創出

【効果】

- ・創業のハードルとなっていた場所の確保を支援
- ・まちにプレイヤーが根付きやすい土壌をつくる
- ・関係人口を増やすことでまちのファンを増やす
- ・遊休不動産の有効活用

▶ 兆し：まちの先行事例

しごと創造ファクトリー
ひとつ屋根の下

実施エリア：元流灯工房
改修時期：2021年7月

杉戸町が公共施設をchoinacaに有償で貸し出し、民間投資でリノベーションした事例。地域で仕事を創り、実践する人のための「しごとの学校」。コワーキング機能とスクール機能を持ち、講座・イベント・交流の場を提供している。



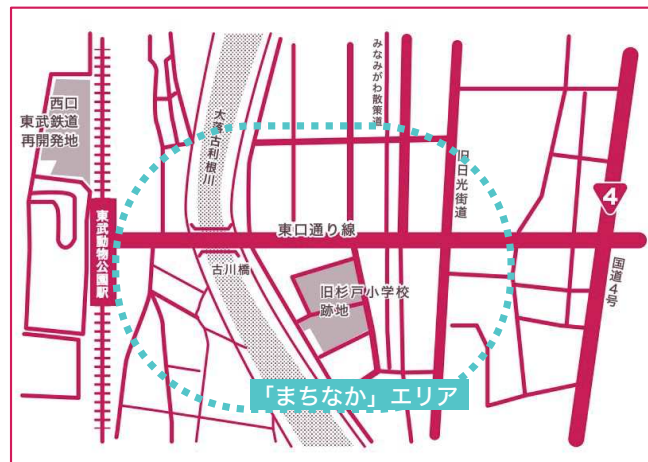
＼ 来場者の声 ／

- ・やってみたいことを応援してもらえる、実験してみたいと思える場所です。
- ・サービスを提供する人とお客さんの関係ではない「みんなが一員」のエネルギーが最高です。

憩×場

憩いの
場がある
まちなか

公共空間を誰でも活用できる仕組みを構築し、
多目的な活動の場とします。



官民連携による 公共空間の「居場所」化

新しい活用方法を実験することで、誰でも活用できる公共空間の仕組みを整備。憩える「居場所」がまちの風景を変える。

近年、公共空間である道路や河川は、通過する空間から、散歩やレクリエーション、各種コミュニティ活動等が行われる「居場所」として見直されはじめています。

公共空間の新しい活用方法を実験していくプロセスから、必要とされる支援や仕組み・規制緩和・設備の整備を検討し、誰もが活用できる「居場所」へと変化させていきます。

住民や外から訪れた人たちがまちに関わる機会を増やすことで、新しいプレイヤーの発掘につなげるとともに、自由に豊かに活用される公共空間がまちの風景を変えていきます。

憩×場

憩いの
場がある
まちなか

▶ NEXT ACTION

歩道空間
クリエイティブ

【資源】

- ・東武動物公園駅東口駅前広場、東口通り線
- ・大落古利根川

【手法】

- ・各種手続きの支援や仕組みづくり、規制緩和
- ・活用しやすい設備を可能な範囲で整備

【効果】

- ・日常的な公共空間の活用が促進される
- ・通過するだけの公共空間が憩いの場に変化する
- ・アイデアが集まり、新たなビジネスにつながる
- ・有事の際の防災機能強化

▶ 兆し：他都市の先行事例

東京都豊島区池袋
グリーン大通り

東京都豊島区池袋のグリーン大通りでは、道路占用上の手続き支援や規制緩和、設備の整備を行っています。

電線地中化／舗装の色分け：歩行面と出店面で色分けをして視覚的に判別できる工夫／電気：鍵付きで出店者が活用できる／散水栓：蛇口、量水器有り／フットライト／歩道内アンカー：テントや露店の固定



電線地中化・舗装



電気取り出し口



散水栓



アンカー

憩×場

憩いの
場がある
まちなか

▶ NEXT ACTION

使い倒せ！
広場空間



【資源】

- ・旧杉戸小学校跡地
- ・公園、広場

【手法】

- ・各種手続きの支援や仕組みづくり、規制緩和
- ・活用しやすい設備を可能な範囲で整備

【効果】

- ・日常的な公共空間の活用が促進される
- ・アイデアが集まり、新たなビジネスにつながる
- ・利用者のまちへの当事者意識が高まり、将来的に民間主導による管理運営の体制づくりにつなげる
- ・有事の際の防災機能強化

▶ 兆し：まちの先行事例

マチナカリビング

実施エリア：旧杉戸小学校跡地

開催時期：2020年10月／2021年7月

公共空間活用の社会実験として、閉鎖された広場を開放する「マチナカリビング」を開催。約150人の方が集まり、スケートボード・ボッチャ・飲食と、思い思いの使い方を楽しみ、多世代の憩いの場となった。



＼ 参加者の声 ／

- ・電源や照明、給排水設備があるとさらに出店しやすい。
- ・日常的に使われることで、新しいコミュニティや活動が生まれると感じた。

憩×場

憩いの
場がある
まちなか

▶ NEXT ACTION

大落古利根川
アクティビティ

【資源】

- ・大落古利根川

【手法】

- ・駅近の大落古利根川を活かしたアクティビティを展開
- ・各種手続きの支援や仕組みづくり、規制緩和
- ・活用しやすい設備を可能な範囲で整備
- ・ゴミ拾い等の積極的な環境美化活動

【効果】

- ・まちに訪れ、滞在する、動機付け
- ・利用者のまちへの当事者意識が高まり、将来的に民間主導による管理運営の体制づくりにつなげる
- ・河川周辺の環境保全

▶ 兆し：まちの先行事例

大落古利根川
SUP体験

実施エリア：大落古利根川
開催時期：2020年10月開始

水辺空間の活用実験としてサーフショップRADIXの運営による「古利根SUPクラブ」が定期的開催され、多方面から人が訪れはじめている。



＼ 参加者の声 ／

- ・都心から1時間程度でSUPができるのは貴重。
- ・手ぶらでできるのがありがたい。
- ・SUP置き場があるといい。
- ・簡易的なシャワーがあるとより良い。
- ・川へ降りるスロープが欲しい。

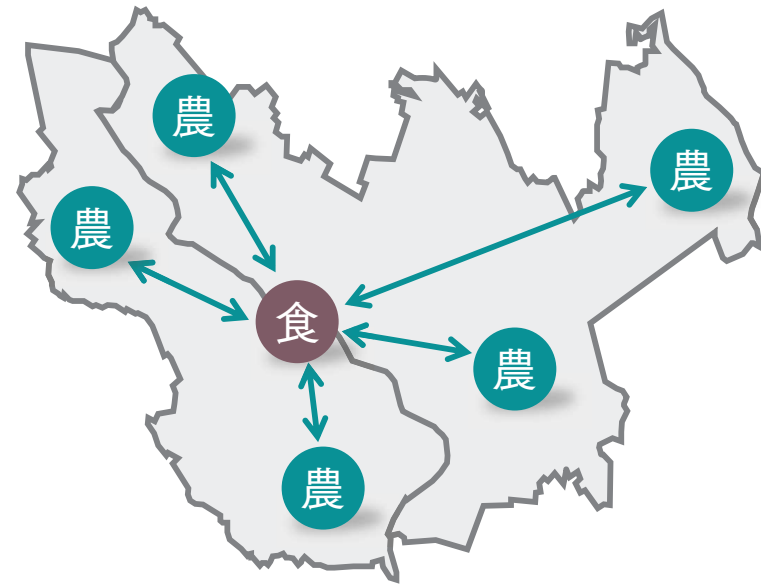
農×食

農を
まちなかで
食す

まちなかに近い農、その魅力を活かして地産地消の推進と農ある暮らしの魅力を発信します。

農と「まちなか」を
つなげる

「まちなか」で農にふれる
体験から農地とつながる



農の販売・飲食を通じて、生産者と消費者のコミュニティを形成し、
「この人だから買いたい」という意志ある消費を促します。

まちには、アグリパークゆめすぎとや新しい村、民間の農場等、農資源が点在しています。
しかし、駅から遠い郊外であることが多く、ふれあう機会は限定されていました。

そこで、優れた農資源を「まちなか」の空間資源とつなげ、販売・飲食を通じた接点をつくり、生産者の販路拡大や収入の安定化につなげていきます。

訪れる人に豊かな農資源が広がる郊外にも興味を持っていただきながら、農業への関心を高め、新たな担い手支援にも力を入れていきます。密にならない農ある暮らしは、都心部で働く人の2拠点ワークの場、さらには移住定住の候補地としても魅力あるものになります。

農×食

農を
まちなかで
食す

▶ NEXT ACTION

地産地消 コミュニティ



【資源】

- ・まちなかに点在する空間資源とプレイヤー

【手法】

- ・まちの農産物を使った事業展開

【効果】

- ・生産者と消費者のコミュニティ形成と意志ある消費の醸成
- ・まちなかコンテンツとの連携による地域経済循環率の向上
- ・新鮮野菜を通じて、農のおいしさにふれあう

▶ 兆し：まちの先行事例

1DAYレストラン

実施エリア：まちなかの遊休不動産
開催時期：2020年10月

まちなかの遊休不動産をリノベーションした空間で、近隣で店舗を借りて出店したいプレイヤーによる地元農家の野菜を使った1日限定のレストランがオープン。



顔の見える消費者、生産者、料理人。
消費者が生産者を指名する「意志ある消費」が連鎖することで、持続可能な地域経済の構築につながります。

農×食

農を まちなかで 食す

▶ NEXT ACTION

農産物移動販売市



【資源】

- ・アグリパークゆめすぎと、新しい村
- ・まちなかに点在する公共空間と遊休不動産

【手法】

- ・公共空間や遊休不動産等の空間資源を活用し、まちなかで農産物等の販売
- ・定期的な曜日、時間（朝・夕）に開催
- ・農のサポーター塾制度の活用

【効果】

- ・地産地消の推進
- ・食を通じた農家へのサポート
- ・生産者の所得の増加

▶ 兆し：まちなかの先行事例

アグリパーク ゆめすぎと 移動販売

実施エリア：東口通り線など
開催時期：2021年3月 / 2021年7月

アグリパークゆめすぎとによる移動販売を東口通り線の道路用地で開催。
採れたての新鮮野菜は、ご来場いただいた方々に大盛況。
町民の農産物を気軽に買いたいニーズは高い。



＼ 参加者の声 ／

- ・新鮮な野菜が気軽に買えてありがたい。
- ・日常的に開催してもらえると、買いやすい。
- ・開催日を事前に告知してほしい。

農×食

農を まちなかで 食す

▶ NEXT ACTION

※ エディブルガーデン



※ エディブル…「食用の」という意味。野菜やハーブなど食べられる植物を主体に育て、収穫を楽しむ菜園をエディブルガーデンと呼ぶ。

【資源】

- ・広大な農地と豊かな農産物

【手法】

- ・遊休農地等を借りて自分たちのペースで野菜や米をつくる
- ・田んぼや畑をレストランに見立て、菜園で採れた野菜で料理を味わう体験を提供
- ・焚き火やデイキャンプなどキャンプ要素も取り入れる

【効果】

- ・実体験による農業に対するリスペクト
- ・コロナ禍において高まる農ある暮らし、自然と共生する暮らしの実現でまちの魅力を再認識
- ・都心在住者の2拠点居住の候補になる可能性
- ・まち及び住民の自給力向上

▶ 兆し：まちの先行事例

のらのば

～ のりくらりと野良仕事 ～

実施エリア：杉戸町本島

食や農の小商いを実践している女性を中心に、自分たちが食べる分の食べ物をつくれる力＝自給力をつけることを目的に、遊休農地を借りて菜園を開拓。自分の力でつくるよこびを得るとともに、苦労をとおして農業や農家に対するの尊敬が生まれている。



当たり前消費する側にいた人たちが生み出す側に。
仲間や地域のつながりを頼って、時間をかけてやりたいことをゆくりと実現していく。

未来の日常風景

圧倒的
ホームタウン

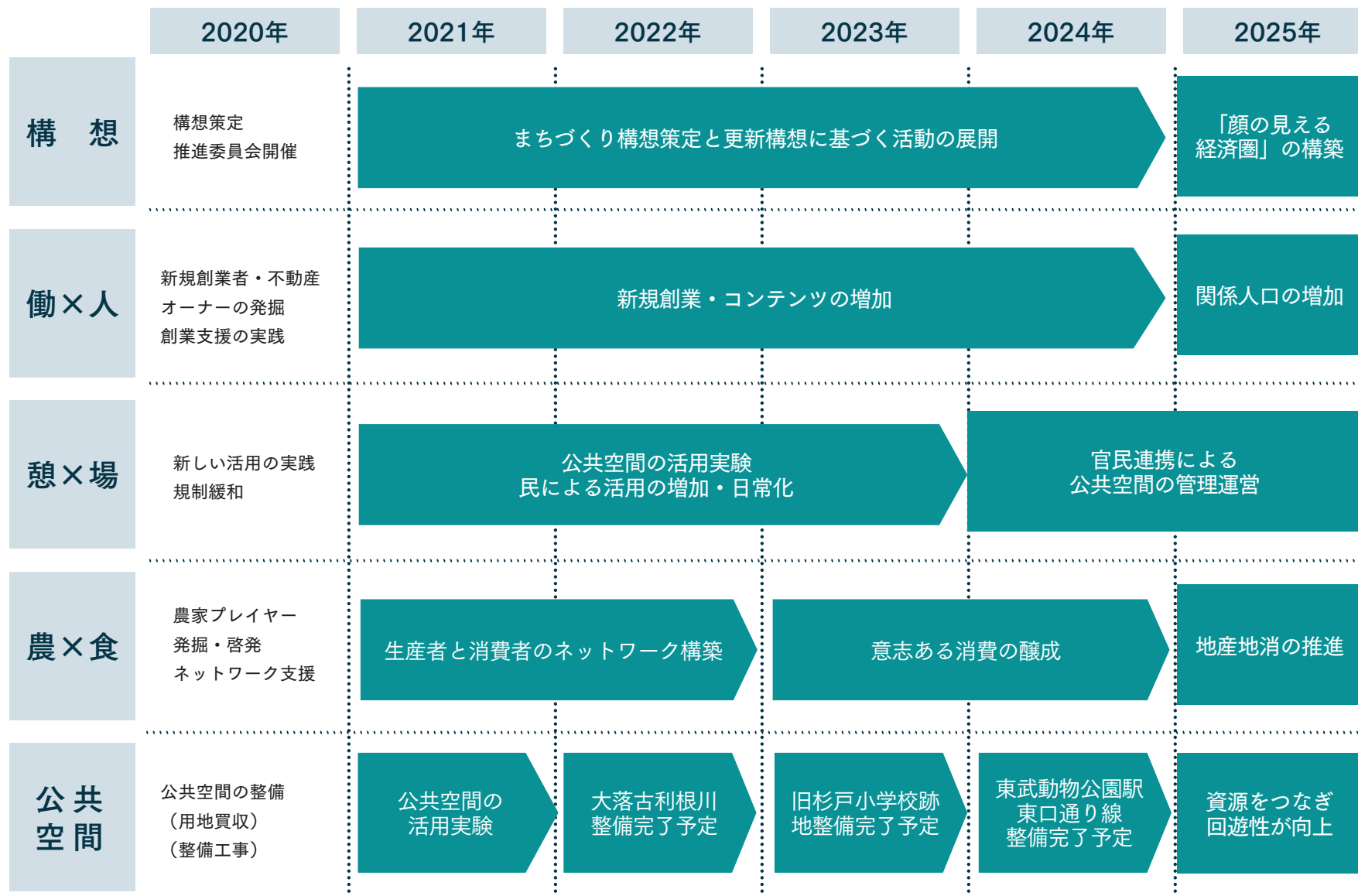




今後の展望

5

今後の展望



※公共空間の整備については、現時点での計画年度を記載しています。そのため、完了年度については、変更となる可能性があります。

まちなかの公共空間の再編

道路空間の無電柱化と美装化によるグレードアップ
旧杉戸小学校跡地・大落古利根川の活用に向けた整備

道路空間のグレードアップ



整備イメージ

出典：愛媛県松山市 花園町通り

電線類の埋設による無電柱化が行われ、安心・安全に通行ができる開けた空間に生まれ変わります。併せて、景観（歴史・文化）や機能を考慮したデザインに道路施設を統一し、集い、憩い、多様な活動を繰り広げられる空間整備が行われる予定です。

旧杉戸小学校跡地の再編



整備イメージ

「広場を中心とした、多世代が憩い、利活用できる公共空間」とすることを活用方針として、官民連携手法を用いて再編が行われます。認可保育所やシェアキッチン等の民間誘致施設、広場等が整備される予定です。

大落古利根川の活用整備



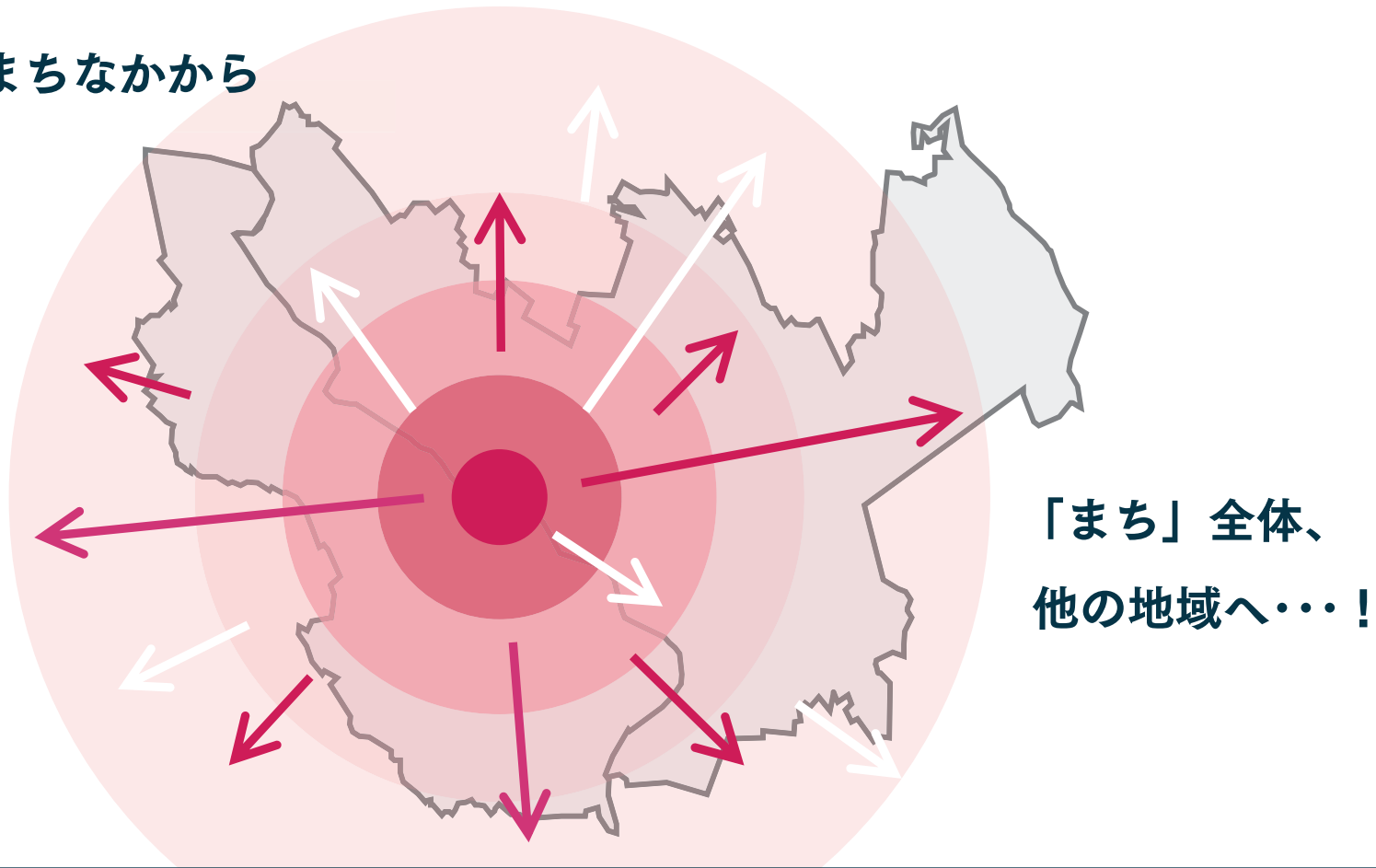
整備イメージ

出典：草加市綾瀬川 草加パドラーズ

埼玉県により重点整備区間と認定され、ハードの整備が行われます。川を活用しているプレイヤーからの意見等を取り入れて、川へ降りられるスロープや給水設備、張り出しデッキ等が整備される予定です。

広域への波及を目指して

将来はまちなかから



本構想は、東武動物公園駅東口通り線周辺だけにとどまりません。
実現することで得た経験、反省、ノウハウ、人脈を地域に限定されず活用していきます。